

コミュニティ協議会との意見交換等のまとめ 個表

境南コミュニティ協議会

① 運営の工夫・利用者（住民の満足度）の向上

<p>利用者への配慮と適切な対応</p>	<p>【現状】体育室は多くの利用があり、卓球やバドミントン等、様々な活動が行われている。</p> <p>【工夫している点】体育室は混雑時には2時間を目安にした利用をお願いしている。</p>
<p>新しい利用者・利用団体の増加</p>	<p>【現状】「モーニングハイク」事業では、より多くの人に関心を持ってもらえるような場所を検討し、選出している。ただ行くだけではなく、その場所で子どもが遊べるかといった点にも留意し、新たな人の参加を企図している。</p> <p>【工夫している点】体育室があることから、「スポーツ委員会」というものを設け、スポーツ関連団体から1名ずつ出してもらっている。各団体が企画・運営側に回り、一般利用者を対象としたスポーツデーを開催した。</p>
<p>施設の利用方法の工夫</p>	<p>【現状】体育室は、夏場は気温が上昇するため、特に高齢者などは熱中症に気を付ける必要があり、15分ごとに気温を測定し記録をするとともに適宜注意喚起を行っている。</p>
<p>情報の提供</p>	<p>【現状】ホームページに施設予約状況を公開している。</p> <p>【工夫している点】ホームページに地域の風景等を撮影した写真を多く掲載し、効果的に地域の紹介をしている。また、周年記念誌をホームページで公開し、協議会活動や歴史を広く情報提供している。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

<p>利用者・利用団体 とコミセンとのつ ながりづくり</p>	<p>【現状】「モーニングハイク」事業は、地元について新たな発見があると好評で、小さな班で出かけるため、全く知らない人同士の交流が生まれる点の特徴である。また、「ママのための健康講座と親子 de 体操（6か月から1歳未満の子どもを対象）」や「くまのこひろば（0から3歳未満の子どもを対象、絵本の読み聞かせ等）」など、乳幼児向けの事業を多く実施している。</p> <p>【工夫している点】子どもの成長に応じた事業を実施していることで、継続的に関わりを持っている。</p>
<p>地域とコミセンの つながりづくり</p>	<p>【現状】地域の各種団体から、コミセンの運営委員を選出しており、運営委員会そのものが地域団体のつながりを生む場所になっている。また、コミセン独自で自主防災担当を決め、境南地域防災会の一員として3～4人が会議・訓練に参加している。境南地域社協と武蔵野赤十字在宅介護・地域包括支援センターと連携して、認知症のささえあい、一人住まいの方々の見守りにも参加している。</p> <p>【工夫している点】協議会のOB・OGが立ち上げた境南盆踊り実行委員会に協議会が入り、境南盆踊り大会を開催している。実行委員会の呼びかけによって、企業や老人会等、多くの地域団体が関わっている。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

<p>運営委員・協力員 の人材充実</p>	<p>【現状】運営委員は、地域の各種団体から選出してもらう形で確保している。ただし、担い手の高齢化は課題ではあるが、スポット的にPTAや支部社協の協力が得られている。</p>
<p>持続可能な事業の 実施</p>	<p>【現状】「モーニングハイク」事業は、毎年新役員が担当となっており、事業の次世代への引継ぎや新役員の地域へのお披露目が企図されている。また、運営委員は、「成人活動部」「地域対策部」といった5つの部のどれかに所属することになっており、それぞれに役割・裁量を与えている。どの部に所属するかは、希望も踏まえるが、最終的な調整は役員が行っている。</p> <p>【工夫している点】5つの部には部長がおり、彼らの主体的な行動が増えている。事業の企画などを各部に任せることで、毎月の運営委員会での提案・報告が活発に行われている。</p>
<p>活発な協議会運営</p>	<p>【現状】協議会会則を見直し、実現はしなかったが改定案を住民総会に提出する等、より良い協議会運営ができるよう工夫している。</p>